

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K10786

研究課題名(和文)子どもの最善の利益を目指した「家族中心ケア」に基づく看護管理基準の開発と評価

研究課題名(英文)Development and Evaluation of Nursing Management Standards based on "Child and Family-Centered Care" Aiming at the Best Interests of the child

研究代表者

相澤 恵子(AIZAWA, Keiko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40520771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、小児医療において日常的に行われる末梢静脈ライン留置処置(IV処置)に焦点化して、Child and Family Centered Care(C&FCC)を推進するための看護管理基準の開発と評価を行った。3つの予備調査を実施し、その結果に基づき「C&FCC看護管理者学習支援教材手引き-IV処置-」及び「C&FCC推進ツール」を備えた学習支援教材を開発した。介入研究を実施した結果、小児病棟所属の看護管理者の知識や態度の変容的学習に影響がみられた。さらに子どもの苦痛を和らげるための薬理的・非薬理的ケアを通じたC&FCC実践の改善など、ケアの実践状況の変化が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、小児の末梢静脈ラインの留置処置の文脈におけるChild and Family Centered Care(C&FCC)の具体的実践の体系化、及び、看護管理基準と具体的なケアを結びつけた学習支援教材の効果検証への貢献である。社会的意義としては、本研究がIV処置におけるC&FCC実践の改善に直接的な影響をもたらしていることが挙げられる。医療に係る専門家、子ども、家族員がC&FCCの行為を理解し、奨励され、やがては自然に行われる環境をつくるのが課題となっているが、本研究がC&FCCを推進し、ひいては子どもを含む家族の最適な健康や安寧につながる可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：We developed and evaluated nursing management standards intended to promote Child and Family Centered Care (C&FCC) with a focus on peripheral indwelling intravenous lines (IVs), which are a common procedure in pediatric medicine. Based on the results of three preliminary surveys, we developed learning support materials featuring "C&FCC Nurse Manager Learning Support Guidance: IV. Procedures" and "Tools for Promoting C&FCC." The intervention study's results demonstrated an impact on the attitude and knowledge aspects of transformative learning among nurse managers working in pediatric wards. Further, beyond the behavioral transformation of individual nursing managers, changes in group behavior, such as improved C&FCC practice through pharmaceutical and non-pharmaceutical care for alleviating children's pain, were also suggested.

研究分野：看護管理学

キーワード：子どもと家族中心ケア C&FCC 看護管理 末梢静脈ライン留置処置 組織文化 組織学習

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

Child and Family- Centered Care (以下 C&FCC) は小児医療における理想的な概念と考えられている。1990 年頃、子どもの家族がその子どものケアにおいて極めて重要であるという医療専門家による認識に基づいて「家族中心ケア」という概念が、C&FCC に先駆けて提唱された (Bruce, 1997)。「家族中心ケア」は、子ども、家族、医療者とのパートナーシップを基盤とし、子どものヘルスケアニーズの充足に向けた、『ひとまとまりの家族』のセルフケア機能の向上、及び最適な健康と安寧を目指す。「家族中心ケア」と C&FCC は本質的には同義であるが、近年は、子どもがケアプロセスの中心であること、そして子どもを含むひとまとまりの家族をケアプロセスの中心に据えていることを明示した C&FCC が普及しつつある。

しかし、教育の不足や医療システムの柔軟性の不足から C&FCC は実践の難しさが指摘されている。日本の調査結果では、小児病棟において看護師と子どもの家族が認識する C&FCC の必要性と実践されている C&FCC の現実との間の乖離がある。特に検査・処置に関するケア項目での乖離が大きい (平山, 2008)。C&FCC を促進するための課題の解決にあたっては、病棟で提供される看護の質に責任を持ち、C&FCC のロールモデルとなる看護師長の役割が期待されている (Jonson & Abraham, 2012)。そこで、看護管理者の意思決定の拠り所となる看護管理基準を学ぶことのできる学習支援教材を使った学習支援が C&FCC の推進に有効であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、子どもが入院している病棟で C&FCC に基づくケアを実践するための看護管理基準を含む学習支援教材の開発及び評価を行うことである。なお、C&FCC を組織文化として醸成するには、C&FCC を具体的な行為に結び付け、実践的な価値規範を構築して根拠づける必要がある。そこで、小児医療において日常的に行われる末梢静脈カテーテル留置処置 (以下、IV 処置) に焦点化して研究を進めた。

3. 研究の方法

本研究の目的の達成に向けて、3つの予備調査を経て、看護管理基準を開発し、評価した。

(1) 予備調査 1 (スコーピングレビュー)

子どもの IV 処置の際の C&FCC の具体的実践とそのアウトカムを明らかにするために、スコーピングレビューを行った。文献の包含基準について、「対象」は子ども (0~18 歳未満) とその家族、「概念」は末梢静脈ライン留置を受ける子ども及び家族へのケアや支援、「文脈」は子どもと家族の両者へのケアが含まれているとした。

(2) 予備調査 2 (インタビュー)

IV 処置における小児看護専門看護師及び家族支援専門看護師の C&FCC の具体的実践、C&FCC 実践を促進した要因、C&FCC 実践を促進するための課題を明らかにするために、4名の専門看護師にインタビュー調査を行った。

(3) 予備調査 3 (訪問調査)

英国ロンドンで優れた小児看護実践を行っている Great Ormond Street Hospital for children を訪問し、子どもの IV 処置の際の C&FCC の具体的実践及び、ケア実践を促進するためのマネジメントの先駆的取り組みについて、3名の看護師にインタビュー調査を実施した。

(4) 学習支援教材の開発

3つの予備調査の結果と文献検討の知見に基づき「C&FCC 看護管理者学習支援教材 手引き - IV 処置 - 」と「C&FCC 推進ツール」を備えた学習支援教材を開発した。

(5) 学習支援教材の評価

開発した学習支援教材を評価するために、全国の小児入院医療管理料届出病棟に所属する看護管理者を対象とした介入研究を行った。事前・事後調査とも終了した 18 人からのデータを分析した。

4. 研究成果

(1) 予備調査 1 (スコーピングレビュー)

対象となった 10 文献の研究デザインは、Randomized study (single-blind experimental design を含む) 9 件 (90%)、探索的質的デザインの研究 1 件であった。

IV 処置における C&FCC の具体的実践は下記の 4 つであった。医療者が子どもへのディストラクションを行いつつ、親が子どものそばにいることを奨励する。親が子どもにディストラクションを実施できるように教育する。医療者は処置を行う。子ども主導でディストラクションを行う。親は子どもを励ます。親が子どもを縦抱きにして処置を受けられるように支援する。

IV 処置における C&FCC の効果は、いずれの介入も子どもの苦痛を軽減する効果が認められていた。また、親によるディストラクションよりも、医療者によるディストラクションを行いつつ親が子どものそばにいることを奨励する方が、子どもの苦痛が低い結果を示した文献が 1 件あった。親が子どもを縦抱きにして処置を受けられるように支援するケアは、実施有無による穿刺回数の差は認められなかった。

(2) 予備調査 2 (インタビュー)

IV 処置における C&FCC の具体的実践として【IV 処置に向かって子どもの対処能力を高めるために、親と協働して子どもに説明する】【処置中に、家族が子どもの味方でい続けられるように、家族と医療者が役割を分担する】等の 9 つのカテゴリが抽出された。例えば、【処置中に、家族が子どもの味方でい続けられるように、家族と医療者が役割を分担する】の具体的なケア実践は、子どもをリラックスさせるための行動(手を握る、ほめる、さする、励ます、体をトントンたたく、頭をなでる等)をしてほしいと家族に伝え、家族員が子どもを抑えつける場合には、痛いことをするのは医療者の役割だと説明するなどである。

IV 処置における C&FCC 実践を促進した要因として【C&FCC が組織や部署の方針として示されている】【職員同士が話し合いを通じて、子どもと家族への看護の価値観を共有している】【母との協働の仕方や子どもの姿勢の判断は、個々の看護師に裁量がある】等の 10 のカテゴリが抽出された。

IV 処置における C&FCC の実践を促進するための課題として、【倫理的課題を越えて、IV 処置に家族が入る文化に変えるという強い意志を持ってない】【様々な個性の子どもや家族員とパートナーシップを形成することが難しい】等の 6 のカテゴリが抽出された。

(3) 予備調査 3 (訪問調査)

IV 処置の際の C&FCC の具体的実践として【子どもを家族から引き離さない】【処置への家族の付き合い希望を尋ねる】【痛みのマネジメントを受ける権利を守る】【IV 処置を実施する理由を説明する】【家族と医療者の役割を認識し、医療者の役割に徹する】【子どもを支援するための方法を家族に伝える】【子どもにとって快適な姿勢を家族と一緒に探す】等の 12 の実践が明らかになった。

C&FCC を促進するマネジメントとして【理念が反映された組織文化の中で職員を育成する】【末梢静脈ライン留置のガイドラインに、子どもと家族を尊重し、協働する方法を、具体的な行為として組み込む】【WEB サイトやリーフレットを活用して、よりよい協働に向けた最新の知見を共有する】等の 6 のマネジメントが明らかになった。

(4) 学習支援教材の開発

学習支援教材の目的は、C&FCC の推進をするための足掛かりとして、末梢静脈ライン留置に焦点化して子どもと家族と医療者間の協働を推進するために、小児医療に携わる部署の看護管理者の態度及び行動の変化が生じることである。学習支援教材の構成は、Child and Family-Centered Care 推進に向けた看護管理者学習支援手引き - 末梢静脈ライン留置 -、C&FCC 推進ツールの 2 部構成である。COVID-19 の流行を鑑み、遠隔にて学習可能な Web 上で学べる学習支援教材とした。

(5) 学習支援教材の評価

IV 処置時の C&FCC 実践の推進に向けた部署マネジメントに関する看護管理者の知識や態度の変容的学習の効果が示唆された。看護管理者の取り組み例としては、多職種の C&FCC 推進チームを作って目的・部署の課題・実践可能なことを話し合った、副看護師長に相談した、局所麻酔剤を導入した等が挙げられた。さらに子どもの苦痛を和らげるための薬理的・非薬理的ケアを通じた C&FCC など、病棟でのケアの実践状況の変化が示唆された。一方で、C&FCC 実践の推進において周囲の協力が得られなかった際に、次の方略を取るための学習支援や動機づけが課題となった。

引用文献

- (1) Bruce, B., & Ritchie, J. (1997). Nurses' Practices and Perceptions of Family-Centered Care. *Journal of Pediatric Nursing*, 12(4), 214-222.
- (2) 平山恵子 (2008). 小児専門病院における看護師と家族を対象とした「家族中心ケア」提供システムの認識に関する研究, 聖路加看護大学大学院修士論文.
- (3) Johnson, B. H., & Abraham, M. A. (2012). *Partnering with Patients, Residents, and Families: A Resource for Leaders of Hospitals, Ambulatory Care Settings, and Long-Term Care Communities*. Bethesda, MD: Institute for Patient- and Family-Centered Care.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 相澤恵子、平田美佳、吉田千文、小林京子、山路野百合	4. 巻 7
2. 論文標題 英国の先駆的病院におけるChild and Family-Centered Care に基づく末梢静脈ライン留置の実際	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 206-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥 裕美 (OKU Hiromi) (80439512)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	小林 京子 (KOBAYASHI Kyoko) (30437446)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	吉田 千文 (YOCHIDA Chifumi) (80258988)	常磐大学・看護学部・教授 (32103)	
研究分担者	平田 美佳 (HIRATA Mika) (40285325)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授 (22401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------